

## 28PA-am375

アウトカム基盤型初年次教育の取り組みと直接・間接評価による効果の検証  
○中越 元子<sup>1</sup>, 木藤 聡一<sup>1</sup>, 倉島 由紀子<sup>1</sup>, 周尾 卓也<sup>1</sup>, 武本 眞清<sup>1</sup>, 畑 友佳子<sup>1</sup>, 荒川 靖<sup>1</sup>,  
内田 幸子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北陸大薬)

【目的】今年度北陸大学では、初年次教育科目の「基礎ゼミ I」を自ら学ぶ薬学生として成長するための基盤的教育と位置づけ、その内容をアクティブラーニング型教育プログラムに全面改訂した。アカデミックスキルの獲得を主体とするプログラムの実践においては、学修目的と到達目標を明確に設定したコマシラバスを作成してアウトカムを重視し、ポートフォリオを活用した授業展開を行っている。本報告では、この新たなプログラムに基づく初年次教育の組織的な取り組みの学修効果・成果について、直接評価と間接評価により検証する。

【方法】直接評価としては、前期 GPA の比率について、2015、2016 年度の初年次生との比較を行った。さらに、過去 3 年間にわたり同等の薬ゼミのプレースメントテスト I、II をそれぞれ入学時、前期終了時の 2 回実施しており、それらの結果と GPA との相関関係について、経年比較を行った。間接評価としては、各回のコマシラバスに掲げた到達目標に対する学生の自己達成度を 4 段階評価法により調査した。

【結果・考察】2015、2016 年度の初年次生の GPA の比率は、ほぼ同様の傾向を示したが、2017 年度生に関しては GPA3.0 以上の比率が倍増した。また、2017 年度生の GPA とプレースメントテスト II の結果には、強い相関が認められた。一方、到達目標の自己評価は、どの項目に関しても、70%以上の自己達成度を示した。特に「学生生活における基本的なルールの活用」と「多種類ある勉強方法の認識」の項目に関しては 96%の自己達成度を示した。これらの結果は、この 3 年間「基礎ゼミ I」以外の授業内容が基本的に変わっていないことから、2017 年度のアウトカム基盤型初年次教育の学修効果・成果へのプラスの影響を示唆する。